

2019年6月13日(木)第9号

# 共同研究推進委員会通信

発行：教育学部共同研究推進委員会/共同研究推進委員長

## 子どもの「数える」という姿

6月7日(金)14:25~17:00, 附属小学校において第12回校内研究全体会が行われました。授業者は新城喬之先生の1学年算数科「たし算(1)」全11時間の8時目の授業。当日は教職大学院の課題発見実習もあり,多くの参加者が見守る公開授業でしたが,1年1組の児童全員,最後まで疲れも見せずに頑張ってくれました。

今年度,附属小学校では「学びを結びつける力の育成(3年次)」の研究テーマの下,「学びの主体である子供の資質・能力の育成」を目指した実践研究に取り組み,「育てたい資質・能力」を,三つの柱(「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」)毎に整理し,指導と評価の一体化による授業を展開しています。

特に,「思考力・判断力・表現力等」においては,「ふかめる力」をキーワードとして,「集めた情報や経験をもとに,自分の考えを,選択・決定する力」を育む視点から授業づくりをしています。

1年1組の児童24名は,周囲を50名からの「大人」に囲まれ,少し緊張した様子も見られました。それでも「いつもどおり」元気いっぱいの児童が,新城先生の「問い」に答えていきます。

今回の授業で用意された「問い」は,次の二つでした。

こどもが1列にならんでいます。  
けんさんは,まえから5ばんめです。  
けんさんのうしろには3人います。

こどもが1れつにならんでいます。  
けんさんのまえには5にんいます。  
けんさんのうしろには3人います。

※「指導案」より原文転載

1問目は「順序数と集合数のたし算」で,2問目は「集合数と集合数のたし算」。後者は,殆どの教科書で3学期に配置される単元ですが,新城先生は「多くの教科書では年度末に行う問題だが,初めて加法を学習するこの時期だからこそ,既習の加法との相違点や共通点に気づき,加法の意味を広げ深めると考えている」(下線部筆者)として,本時の授業を構想されたようです。

果たして,1問目は黒板にブロックを用意して,全員で考えました。Aさんは黒板のブロックを指で数えながら,リズムよく「1,2,3,4,5」「だから,けんさんはここ」。Bさんは5つと3つのブロックを分けてまとめました。なるほど,順番を意味する「数」「順序数(序数)」と,同じ集合の個数を意味する「数」「集合数(基数)」が,子ども達の思考のうちに見え隠れしているように思えました。

その一方で,前に出た子どもの説明が終

わるのを待って、その都度新城先生がおこなった「わかったお友達／わからないお友達」の確認によって、数名の「分からないお友達」がいたことが気になりました。これは授業研究会でも取り上げられましたが、授業をとおして「分からないお友達」への手立てが見えなかったことは、新城先生自身も反省点として挙げられたところです。

斯くして共同研究者の森力先生が「挑戦的」と評された授業は、終了5分前に（実はチャイムは10分前になっていましたが…苦笑）、Cさんが、2問目を1問目のように「ばんめ」に代えて考えればよいと気づいたことで、「まとめ」となりました。

授業後に「Cさんの意見が出なかったらどうしたの？」と森先生が授業者に尋ねたそうですが、そこには「授業づくり」をめぐる共同研究の進め方に課題を感じました。

指導助言では、①授業について ②資質・能力を意識した授業づくり ③算数科の縦の系統 ④教科の枠をもたない横のつながりの四つの視点から丁寧に解説をされ、学びは「縦の系統、積んでいくもの。低学年は特に丁寧に積み上げる。」との指摘は、小学校六年間を見通し、学びを積み重ねていく児童を主体として捉えた、まさに至言といえるものでした。

ともあれ、すべての子ども達がわかる喜びと楽しさに包まれ、「学びに向かう力」がいつそう育つよう願いつつ、附属小学校がより良い学びと育ちの場となるよう応援していきたいと思えます。

\* \* \* \* \*

最後に、黒板のブロックを指しながら一生懸命数える子ども達の姿をみて、まさに「数の世界」への入り口に立っていると感

じました。同時に、「いち、に、さん、…」とリズムカルに「数える」場面は、子どもたちの生活の中にたくさんあります。それは「順番」を数える場面であったり、同じ仲間のモノの「個数」を数える場面であったりします。そんな場面で起こる子どもの「数える」という行動が「算数的態度」を育てる機会となるのでしょうか。

昨年、附属小学校の二年生の音楽では、「自然の音」に聴き耳をたてる授業に取り組んでいました。耳をすませて風雨の音や葉っぱや枝のこすれる音。そして、自然にならって自分たちで作上げた人工の物音にリズムをつけていきます。そこで音の「まとまり」に気づいた子ども達は、その意味を考え紹介していました。やがてリズムにのった幾つもの「まとまり」に順番や個数が加わりました。子ども達はこの学びを通して、「区切り」や「区別」された「まとまり」を認識し、ついには国語の授業で学んでいた「言葉」と同じだと気づきました。教科を超えて学びが結び付いた瞬間です。

子ども達は気がつく、「楽しい」。だから、その「楽しい」経験をたくさん積み重ねていきたい。ブロックを「数える」子どもの後ろ姿に、そんな思いを感じ取ることできた公開授業研でした。

\* \* \* \* \*

附属小学校の1学期に行われる公開授業研は、6月14日（金）社会科、6月18日（火）図工科・音楽科・算数科、6月21日（金）英語科となっています。いずれも5校時（14:25～）ですので、学部の先生方もこの機会にご参加いただき、子ども達と先生方の学ぶ姿をご覧ください、是非とも「楽しい」気分を味わってください。（文責：辻）

※本号は辻雄二先生にご執筆頂きました。ありがとうございました。（共同研究推進委員長）